

○マメ科の帰化植物タマザキクサフジ (大橋広好) Hiroyoshi OHASHI: Records of a naturalized *Coronilla* (Leguminosae) in Japan

最近、栃木県に帰化しているマメ科の帰化植物 1 種を調べる機会があった。この種は既知のもので、北海道と山口県とからの記録があったが、これら以外の地域にも広がっている可能性が高いと思われるので、紹介しておきたい。本報をまとめるにあたり、原稿を読んでいただき、文献と標本について教えていただいた岡国夫氏および浅井康宏氏に感謝します。また、小倉洋志氏にも全体的にご援助いただきました。

栃木県博物館の小倉洋志博士から栃木市尻内町で1984年6月27日に佐藤光一氏によって採集された、豆果のない花期の標本の送付をうけ、同定を依頼された。目立つ特徴は以下のとおりである。無毛の草本、長さ 120 cm 位、よく分枝し、葉は奇数羽状複葉で 15-20 枚の楕円形の小葉をもち、枝の上部では葉腋ごとに 1 個の散形花序をつける。花序は20花内外が 5-7 cm の花柄の先端につき、花は淡紅紫色の蝶形花、長さ約 1 cm、竜骨弁の先端が濃紅紫色。心当りを探したところ、ヨーロッパ原産の *Coronilla varia* L. 英名 crown vetch と同定できた。種小名は花色の変ることに基づくもので、白、淡紅、紫などがみられるという。また豆果については、円柱状、4稜のある節果で、長さ3-4 cm、3-5 個の小節果よりなり、先は長く伸びて尖るという。

久内清孝先生は、東京で栽培されていた本種にタマザキクサフジと命名した(本誌26: 184, 1951)。その後、森田弘彦氏(レポート日本の植物 No. 8, 1981, 3)は札幌市隣接の広島町道路脇に帰化していることを本種の図と共に記録し、南 敦氏(同レポート No. 10, 1981, 9)は、本種が既に1977年に徳山市の路傍側面で牧草として栽培され、またそのまわりに逸出していたことを報告している。栃木県の生育状況について小倉氏の1984年8月27日の現地調査によれば、本種は栽培されているのではなく、帰化植物として野生化している。生育地は栃木市内の国道293号線の土手斜面で、海拔約 110 m、その道路の西側、尻内町側では 5×50 m にわたって散生しており、東側の梓町側では 5×15 m 位に密生していた、とのことである。ところで、森田氏は本種が牧草としてよりも道路のり面崩壊防止用に播種されることを紹介している。一方、浅井康宏氏によれば(私信)、牧草からの逸出ではないかという。栃木市に帰化したものの由来は不明である。しかし、道路工事あるいは牧草として、人為的に拡げられているのなら、既に各地で帰化している可能性が高いと思う。なお、USA にも帰化しており、Pennsylvania で1979年7月に採集された標本(Boufford & Wood 21193 TUS)には荒地に大集団をつくっているとノートされている。

Coronilla varia L. is recently recorded as a naturalized weed in Japan. It has been found on a bank of road in Hokkaido and Honshu (Tochigi and Yamaguchi Prefectures).
(東北大学 理学部生物学教室)